

日韓「合意」——傍観してられない

梶村道子 (ベルリン・女の会)

今年は年初から忙しい年になりました。言わずと知れた昨年12月の日韓両外相による「合意」のおかげです。韓国協会 (Korea Verband、ドイツの市民団体) の呼びかけで日本大使館前に抗議に集まったのは1月6日、厳寒の雪の日でした。「合意」に異議ありと声をあげたのはベルリンだけではなく。1月27日にはロンドンの日本大使館前に「生きている『少女の像』」が出現しました。

欧州のあちこちで「慰安婦」問題に関心を寄せて来た人々が「合意」に憤っています。安倍政権は、「責任を痛感している」、「心身にわたり癒しがたい傷を負わされた全ての女性に」詫びるといつつも、実はこの「合意」により、真の解決への道筋を一気に断ち切って、「慰安婦」問題を葬り去ろうとしているようにしか思えないからです。

歴史に向き合うことに終わりはない

ドイツ社会が長年ナチズムの歴史に向き合ってきたことは周知の事実です。強制労働の被害者への補償支払いはようやく2000年に始まり、旧ソ連軍捕虜への補償が連邦議会で決まったのは1年前の5月でした。でもナチズム被害者の救済はまだ終わっていません。目下の課題は、占領地からドイツ国内へと連れ去られ、ドイツ人夫婦の養子としてドイツ人になることを強いられたかつての子どもたちだと聞いています。1950年代末に始まったナチ裁判は現在も続いており、去る5月17日に、アウシュヴィッツのSS警備隊員だった94歳の被告に対して、17万件の殺人幫助のかどで5年の拘禁刑の判決が下されたばかりです。歴史と向き合うことには膨大な時間がかかります。どこかで線を引くことなどできません。

ですから交渉の経緯も合意内容の詳細も明かされず、「最終的かつ不可逆的に解決されることを確認する」との結論だけが突出した「合意」には驚き、こんな「合意」でいったい何を



1月6日、突然の「合意」に怒った人たちが、降りしきる雪の中、日本大使館前に集まった。(写真: 梶村太一郎)

やろうというのだと、その目的を疑いました。被害証人は無視、「責任」の内容も曖昧なら、「謝罪」も首相の口から実際に発せられたのかどうか釈然とせず、「終わること」だけ強調する。ハルモニたちがこれを呑み、韓国社会が受け入れるとは思えません。

ドイツに住む人たちの反応

私の周囲の韓国やドイツの友人は、賠償ではないという10億円で日本にではなく韓国に財団を設けることの真意を測りかねています。被害の救済とは、日本政府による公的な謝罪と補償であり、日本軍性奴隷制という人権侵害の事実を徹底解明し、その事実の教育・記憶化を通じて日本社会に広め定着させていくことです。ところが「合意」は、事実の究明や歴史教育に言及していません。安倍政権はこの義務から逃れるつもりだろう、そうでなければ、「被害者の心の傷を癒す」という、具体的内容が不明な事業を韓国政府に丸投げするわけがない、と友人たちは言います。そのうえ市民が設けた在韓国日本大使館前の「平和の碑」の撤去を韓国政府に要求する。これは「慰安婦」の記憶を公空間から閉め出すことだ。安倍首相は日本軍性奴隷の歴史を消してしまおうとしているのではないかと懸念するのです。「合意」は日本国内でも支援者を攪乱し、リベラルなマスメディアをこぞって「合意」になびかせました。そのようにして「慰安婦」問題を公に議論する可能性を封じ込めてしまうのではないのか、現政権の意図しそうなことだと、不信は募ります。

一人デモ、スタート

こうした疑念に突き動かされ、1月以降、女の会、韓国協会、独日平和フォーラム、プロテスタント教会ドイツ東アジアミッションの間で、共同行動のためのフォーラムができています。共通目標の一つ目は、日本軍性奴隷制の事実をドイツ社



「合意」後にロンドンで誕生したグループ「Justice for "Comfort Women" UK」は、1月27日に日本大使館前で、2月5日には国連事務総長が演説をしたウエストミンスター・ホール前で、3月5日にはテート・モダン・ギャラリー前で「生きている『少女の像』」をモチーフに抗議行動を展開。
<https://justice4comfortwomenuk.wordpress.com/category/events/>



3月8日。日本大使館前で「平和の碑」撤去要求の撤回を求める集会。韓国人の若い世代が増えている。(写真: 梶村太一郎)

会に広め、「合意」は問題の解決を意味しないと知らせていくこと、二つ目は、「合意」を是としないドイツの声を日本政府に示していくことです。

3月3日には、主にメディア関係者に情報提供をし、3月8日の世界女性デーには、「平和の碑」撤去要求の撤回を求める集会を大使館前で持ちました。

手軽にできて継続し易いアクションを上げたいと、3月から始めたのが、週に一度、大使館前に立つ「一人デモ」です。一人だから集会にはならず、警察への届け出も不要。都合のつく人が適当な日に手作りのプラカードを持って大使館前に立っています。いたって地味な抗議アクションですが、やってみてわかったのが、こんな豆粒デモにも大使館が目くじらを立てるということです。4回ほど、警官が取り調べにきました。一度はパトカーで来るという大仰さ。大使館が「外交関係に関するウィーン条約」第22条第2項(公館の安寧の妨害又は公館の威厳の侵害)を盾に、警察に取締まりを依頼したのでしょう。

でもドイツの警察は、「『(国際機関も認める)日本軍性奴隷制の被害者に正義を!』という主張は、日本大使館の威厳の侵害だ」と判断するほど愚かではありません。それはともかく、抗議相手に無視されないのはいい気分です。足を止めて説明を求めてくる通行人もあり、Facebookページでの写真報告に加えて、広報効果も期待できそうです。

日本大使館との面談

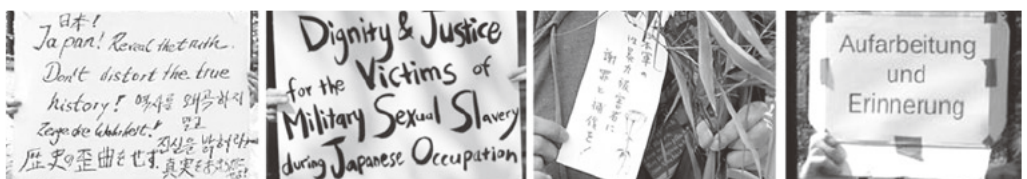
さらなる機会は向こうからやってきました。5月のG7サミット前に安倍首相がベルリンを訪問するというのです。それではと、首相を抗議デモで迎え、女の会、韓国協会、独日平和フォーラム、ドイツ東アジアミッションの連名で、「合意」に抗議する首相宛公開書簡を日本大使館に届けることにしました。書簡にはアムネスティ・インターナショナル・ドイツ支部など14団体の賛同を得ました。

さて、応対に出た政務担当参事官は、こちらが質問をしたいと伝えると、自分はドイツ担当なので、「慰安婦」問題に答えられるほどの知見は持ち合わせない、聞いた話そのまま東京に伝える、と言います。ではともかく質問を聞いて欲しいと伝えて、面談が始まりました。



3月半ばから日本大使館(Hiroshima通り6番地)前で一人デモを続けている。この日はハンブルクから飛び入り。アピールは「直接補償を、今すぐ」。
<https://www.facebook.com/nihongodetalk>

それでもいくつかの質問には答えが返って来ました。以下はそのやり取りです。



ハンブルク、ドイツ語、英語あるいは日本語で、立つ人の思いを込めた「一人デモ」のプラカード <https://www.facebook.com/nihongodetalk>



5月4日。来伯した安倍首相に抗議。50人が「原発止める! 憲法変えるな! 安倍は辞める! 日韓「合意」撤回! 「慰安婦」に正義を!」と連呼。(写真: 梶村太郎)

- 「責任」を痛感すると言いながら、法的責任はないとは?
 - 日韓条約によりすべての法的問題は解決済み。
- 締結時に未解決の事項についての規定が同条約にある。
 - 「慰安婦」問題はこれに該当しないか?
 - それについては日韓両国で見解が異なる。それゆえ今回「合意」を締結した。合意は外交上の知恵だ。
- 「合意」は文書化されていないが、文書化の予定は?
 - たしかに文書ではない。だがホームページで多くの人に読まれており、十分に重みがある。
- アジア女性基金で対象外とされた国との交渉を拒否するのは何故?
 - 日本はアジア女性基金を設け、女性たちに援助をした。民主国家の政府は出された要求を100%適えることはできない(との意味不明な回答)。
- 中国や東チモールの被害者には支払われていないか?
 - 東チモールは特例だと考える。インドネシアには支払ったが、東チモールは遅れて独立したから。

当人が専門ではないと認めるとおり、不可解な見解が目立ちます。東チモールは特例といいながら何もしなくていいと考えているのでしょうか? 一番感じたのが、前回(2013年)に比べて対話しようとする姿勢の後退です。対応者が前回と異なるからなのか、あるいは政府の政策の変化ゆえなのかはわかりません。ともあれ「合意」が安倍政権の意図通りに具体化していくのを私たちは黙って見ていたくはありません。今後も機会を捉えてドイツ側の意見をぶつけていくつもりです。

「一人デモ」は、この号が出る頃には19週目に入ります。デモの回数は25回を超えました。ハンブルクやメルボルン、ロンドンからの飛び入りもありました。ベルリンを超えて上げたいものです。みなさんも、ベルリン来訪の折には是非、Hiroshima通り6番地までおでかけください。